

二つの文化を通して感じる母の愛情 そして、わたしの母への想い

川口 映美^{かわぐち えみ}

わたしの母は、ベトナム出身です。十三年前、ベトナムで父と知り合い、父のお嫁さんになって日本に来ました。家族と離れ、知り合いもなく、言葉や文化など、ベトナムとは違う環境の中での当時の生活は、たいへんだったようです。それを乗りこえられたのはきつと、父の支えがあったからだと思います。今では、日本の生活にすっかり慣れて、わが家では、日本とベトナム両国の文化があふれています。

まず、食文化についてです。わが家の食卓では、ベトナム料理も和食も出ます。母が作るベトナム料理は絶品です。中でも、フォーは、ほかの人には、まねができないくらい最高の味で、心が満たされます。母の料理は、ベトナム料理だけではありません。和食も作ってくれます。祖母のために、季節の野菜を使ったみそ汁や、煮物を作って食べさせています。また、毎年、正月には、おせち料理を作って、集まった親せきにおもてなしをしています。雑煮は、おもちをみんなが食べやすいように、小さく切って入れるなどの心配りもしています。わたしは、母が作ったご飯が大好きです。いつかは母に料理を教わりながら、一緒にご飯を作りたいと思っています。

次に、言葉についてです。母は、少しずつ日本語を覚えて、今では、日本語も話せます。ママ友や地域の人たちとは、日本語で話しています。でも、私や妹の心香との日常会

話は、ベトナム語です。わたしたち親子は、ベトナム語と日本語とを使い分けて生活しています。

母は、その他の日本の文化も大切にしています。六月灯では、わたしと心香に浴衣を着せて、かみの毛を結ってくれます。また、着物を着て写真屋さんで写真をとったこともあります。母が大切にしている日本の文化は、いっぱい、いっぱいあるんです。

日本で、わたしたち家族のためにがんばっている母が、とても楽しみにしていることがあります。それは、二年に一度のベトナムへの里帰りです。母は、お兄さんやお姉さんたちとの再会をととても喜んでいました。ベトナムでは、母とわたしと妹で、バイクに三人乗りして出かけたたり、市場でお買い物をしたりして、里帰りを楽しみました。わたしたちがベトナムに行っている間、父や祖母は、ちよびりさびしかったかもしれないが、きつと、日本でがんばっている母への、父からのこほうびなんだろうと、わたしは思います。

九月十三日、もうすぐ母のたん生日です。日ごろは言えない母への想いを、この作文に書いて伝えたいと思います。大好きなお母さん、いつもわたしたちのためにがんばってくれてありがとう。お母さんを少しでも楽にさせてあげられるように、わたしが、お母さんから頼まれたことは全部やるから、いつまでも元気でいてね。おたん生日おめでとう。